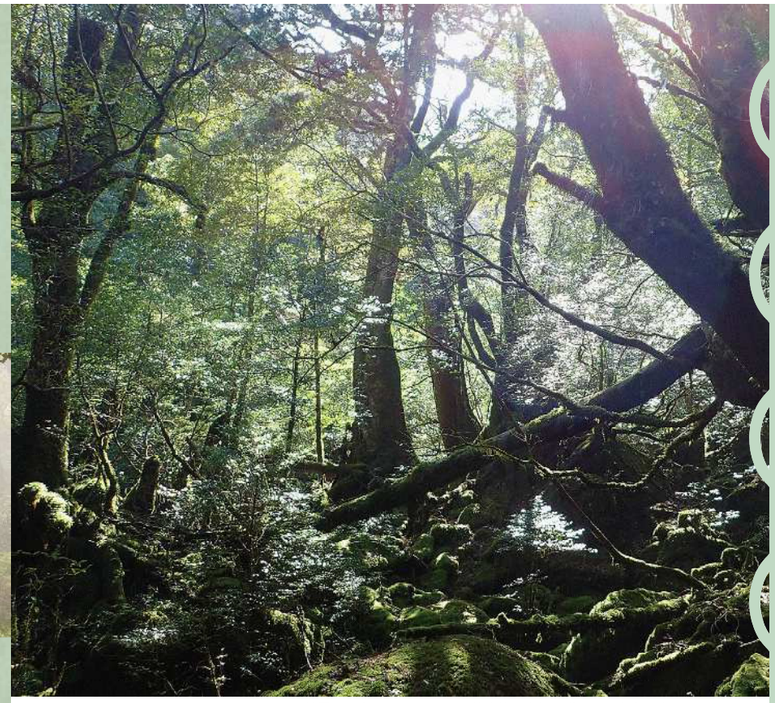
屋久島

一九九三年、白神山地と並び日本で初めての世界自然遺産に登録された屋久島は二〇二三年、登録から三〇周年を迎えた。樹齢七千年を超える縄文杉が息づく神秘の森と、自然の中で心身を解き放つアクティビティを紹介しよう。

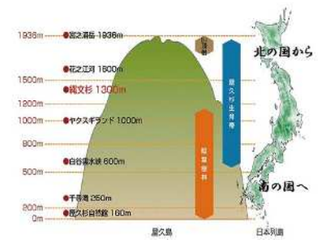


どこかで精霊が見守っているような、神秘的な空気を湛えた屋久島の森

屋久島が育む、唯一無二の自然環境

鹿児島空港から最短三五分、鹿児島港からは高速船で最短一時間四五分と、気軽に足を延ばすことのできる屋久島は、面積約五百平方km、周囲一三二kmと日本で五番目に大きい島だ。島内には標高千mを超える山々が四五以上も連なり、樹齢七二〇〇年とも言われる縄文杉や、ヤクシカ・ヤクシマザルといった稀少な動植物の宝庫ともいえる。

世界自然遺産に認定されたのは、天然の森が原生状態で残っており、なおかつ海岸部から山頂部までそれぞれの標高に応じた植物が帯をなすように変化していく「植生の垂直分布」が見られることなど、国内でも唯一の自然環境が評価されたから。世界遺産の登録地域は島内の約二割に及び、そこには観光客が足を踏み入れることのない太古の自然が息づいている。



標高約2000mの高山が聳える屋久島は、日本国内すべての地域の気候を経験できると言われている

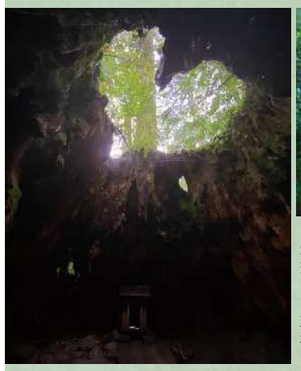
世界遺産を訪ねて in 屋久島

険しいトレッキングコースから森林浴を満喫できる林道まで、
屋久島の楽しみ方は様々。ここでは、屋久島を代表するポイントを3カ所見ていこう。

A 縄文杉コース

白谷雲水峡(P11) と並び、人気を二分する縄文杉。その圧倒的な存在感は、屋久島の神秘の森を象徴する光景と言えるだろう。「縄文杉までの道のりは往復で10時間以上かかることも多い本格的な登山になりますが、途中、頭上がハート型に開けたウィルソン株や、三代杉、大王杉といった巨木を見ることもできるので、天候の急変などで途中で引き返すことになった場合でも、屋久島らしい景色に出合うことができますよ」と大野さん。

樹高25m以上、太さ16m以上を誇る最大級の屋久杉「縄文杉」。その荒々しい木肌は、樹齢7200年とも言われる長き生涯を物語るかのよう。屋久島では樹齢1000年以上が「屋久杉」、それ未満は「小杉」と呼ばれる



左／切り株内部から空を見上げるとハート形に見えると、人気の撮影スポット「ウィルソン株」。約400年前に島津家によって伐られたものとされ、大正時代に屋久杉の調査に訪れた植物学者の名から名付けられた
右／縄文杉までのルートは途中トロッコ道が続く

ルート(すべて徒歩)

荒川登山口 《0分》 ウィルソン株 《約40分》 大王杉 《約2分》 夫婦杉 《約40分》 縄文杉 《約105分》 三代杉 《約5分》 楠川分かれ 《約75分》 トロッコ道 《約40分》 荒川登山口

自然を敬い、共生する島の文化を伝えたい

ネイティブビジョン
代表兼ガイド
大野 睦さん

屋久島の自然の多くは手つかずの原生林ではなく、自然との共生の中で人々が守り育んできたもの。「縄文杉」をはじめ、木に名前がつけられているのも、何千年もの時を生きる彼らを神聖なものとして敬ってきた山岳信仰の表れなんです。私達、ネイチャーガイドも屋久島の自然と共に在る以上、そういった島の文化を大切に受け継ぎ、伝えていきたいと考えています。屋久島には旧暦の正月、五月、九月の十六日に「山の神祭り」といって、この日は山に立ち入らないという風習が残っているんです。私達ガイドの多くもそれに倣い、

屋久島の自然に遊ぶ

世界遺産・屋久島では、多様なアクティビティが充実。
自然の中で身も心もリフレッシュするひと時を過ごしてみては。

森林セラピー

森に包まれ、癒されるひと時

体力に自信がない人でも、自然に触れて、心身をリフレッシュできるのが屋久島の魅力。中でも、免疫力向上やがんの予防などの科学的なエビデンス（証拠）に裏付けられた森林浴が「森林セラピー」だ。「1歳から90代まで様々な方が参加されています。日々の忙しさから解放されて、自分の心と体に向き合う時間を過ごしていただけたら」と森林セラピーガイドの辻美穂さんは話す。

森呼吸～ yakushima ～
熊毛郡屋久島町楠川 905　TEL 090-3622-8509

木々の豊かさを感じるひと時。シートを敷いて寝転ぶだけでも、屋久島の森は特別な体験にしてくれる

スクーターシュノーケリング

気の向くままに海中散歩

サンゴ礁の北限に位置する屋久島は、海のアクティビティもおすすめ。シュノーケリングやダイビングをはじめ、様々なマリンスポーツを楽しむことができる。近年、新登場のアクティビティが「スクーターシュノーケリング」だ。手に持った小型のモーターのスイッチを押すだけで、自由に行きたい場所へと進むことができる。海底に広がるサンゴ礁、悠々と泳ぐウミガメ…、森と海、自然を満喫する島時間を。

屋久島マリンサービス YMS
熊毛郡屋久島町小瀬田 913-53　TEL 0997-49-4380

透明度の高い屋久島の海。運が良ければウミガメに出合えるかも

B 白谷雲水峡コース

こちらは縄文杉と比べてややライトなコースで、体力や時間に合わせてルートを選ぶことができる。映画『もののけ姫』の「シシ神の森」の舞台と言われ、木々と苔の絨毯が織りなす光景は世界中にファンを持つ。時間と体力が許せば、太鼓岩を目指すのがおすすめ（往復5時間ほど）。標高1000mを超す場所に鎮座する巨岩の上から、屋久島を一望できる。

地面だけでなく、岩や張り出した木の根までが苔に覆われた世界が広がる白谷雲水峡。往復1時間、3時間程度のルートも用意されている

疲れも吹き飛ぶほどの絶景が広がる太鼓岩。4月には山桜が、5月には深緑が見ごろを迎える

太鼓岩往復ルート

白谷広場 ―（約10分）― 飛流おとし ―（約5分）― さつき吊り橋 ―（約60分）― 奉行杉 ―（約60分）― 三叉路 ―（約10分）― 白谷広場
三叉路 ―（約20分）― 太鼓岩 ―（約15分）― 辻峠 ―（約20分）― 三叉路
三叉路 ―（約50分）― 奉行杉 ―（約40分）― もののけ姫の森 ―（約30分）― 辻峠
飛流おとし ―（約10分）― 七本杉 ―（約10分）― 飛流おとし
七本杉 ―（約5分）― 白谷小屋 ―（約5分）― 七本杉

ヤクシマザル、ヤクシカに遭遇。春には子連れの姿に出会うことも

C 西部林道コース

屋久島で唯一、海岸線から世界自然遺産に指定されている「西部林道」は海岸部から山頂に至るまで世界最大級の照葉樹林の原生林が広がっている。ヤクシマザルやヤクシカといった貴重な生物が多く生息し、ハイキング中に出会えることも多い。「縄文杉を目指すルートとは違い、時間に追われることなくのんびりと自然を満喫するのにぴったりの場所ですよ」と大野さん。2023年12月現在、台風による橋の流出の為、林道11kmのうち1.7kmにわたり通行が不可能となっている。

ルート

西部林道 ―《車《（約65分）― 屋久島空港

沿岸道路約15kmが世界遺産登録地となっている西部林道。照葉樹林の中をゆっくりと散策して、森林浴を楽しもう

※通行止め区間の最新状況は、熊毛支庁屋久島事務所 建設課（TEL 0997-46-2213）まで

この日は救急法の講習などに充てているんですよ。

屋久島の自然を大切にするにしても、「世界遺産だから大切にしてくださいね」というのは、個人的には違うと思うんです。世界遺産に認定される以前からこの島には雄大な自然があり、それを現在まで守り続ける人がいる。そうした文化に敬意を払って、島に暮らす人も訪れる人も、一緒になって屋久島を大切にしていけたら素晴らしいと思います。

屋久島の恵み

豊かな海と森が生み出した、屋久島の恵み。屋久島を訪れたら味わいたい、お土産にしたい一品を紹介しよう。

写真提供：屋久島町

首折れサバ

島内でしか味わえない鮮度が生む食感

鮮度が命のため、この食感を味わえるのは水揚げされて24時間程度。地元では、刺身のほかにすき焼きとしても楽しまれている

屋久島を代表する地魚であるゴマサバ。その中でも漁獲後に首を折り一瞬で血抜きをしたものを「首折れサバ」という。明治時代、屋久島北部の一湊（いっそう）漁港の漁師が鮮度を維持するために始めたのがこの方法。漁船の設備も向上した現在は、漁港に水揚げする直前にこの作業を行っている。

首折れサバの特徴はごりっとする弾力のある食感。鮮度が生み出すこの食感は島外では味わうことができない。屋久島を訪れたら必ず味わいたい一品だ。

ヤクシカジビエ

臭みがなく、高栄養 屋久島ブランドのジビエ

栄養価が高く健康食としても人気。島内では焼き肉店やレストランで提供されている

有害鳥獣捕獲管理の目的で捕獲されていたヤクシカの有効活用を目的に、平成二六年に加工センターが開設され、徹底した品質管理の下、精肉や、缶詰やふりかけなどの加工品が生産されている。低脂肪で高タンパク質なヤクシカは栄養価も高く、うま味が凝縮され、臭みもないと島外の飲食店からも人気だ。

近年では、捕獲数が減少し、貴重になっているヤクシカジビエ。「ヤクシカブランド」として県内外から注目を集めている。

屋久杉工芸品

屋久島の杉を使用した森の豊かさを伝える工芸品

屋久島町では出産祝い品に地杉（※）を使用したおもちゃや椅子を贈っている

※樹齢1000年以上の保護種を「屋久杉」、1000年以下を「小杉」、50～60年以下の人工材を「地杉」と呼ぶ

御神木として敬われてきた屋久杉。江戸時代に泊如竹（とまりじょちく）という儒学者が伐採を進言するまで伐られることがほとんどなかったという。その後、昭和五七年に伐採が禁止されるまでは屋久杉を使用した工芸品が生産され、テーブルや壺といった大型の商品が制作されていた。現在は、江戸時代に伐採された後の切り株である土埋木（どまいぼく）や風倒木（ふうとうぼく）を使用し、キーホルダーや箸といった、屋久島の土産物が生産されている。

奄美大島

二〇二一年、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録された。サンゴ礁が息づく美しい海、マングローブの森、そこで育まれた食や工芸の文化…、奄美大島の魅力を紹介していこう。

海水と淡水が入り混じる汽水域に広がるマングローブ林。無数の稚魚や水生動物、鳥類を育むことから「生命のゆりかご」と呼ばれる

独自の進化を遂げた生物多様性が登録理由

羽田空港から直行便で約二時間二五分、鹿児島空港からは約一時間で到着する奄美大島。奄美大島を中心に八つの有人島からなる奄美群島は二〇二三年、本土復帰を果たしてから七〇周年を迎えた。

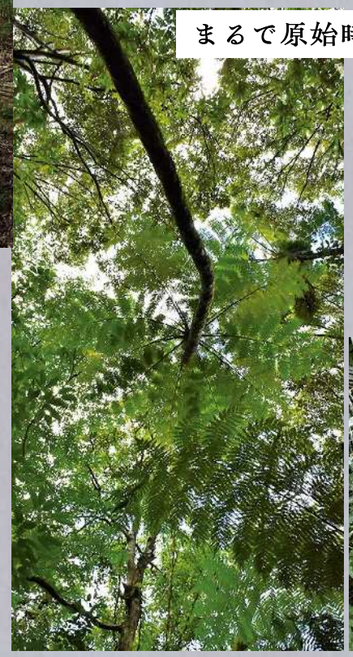
奄美大島は約一五〇〇万年前、ユーラシア大陸から分離した南西諸島が隆起と沈下を幾度となく繰り返してできた島の一つ。人々が森と共生する中で育まれてきた屋久島の自然と異なり、原始の森を彷彿させる原生林が島の大部分を占め、「洋上の森」とも言われている。

絶滅危惧種に指定されたアマミノクロウサギをはじめ、アマミイシカワガエル、リュウキュウアユといった水生生物、ルリカケスやオオトラツグミといった鳥類など、大陸から隔絶した島内で独自の進化を遂げた生物や生態系の「多様性」が、保護・継承すべき地球的な資源と認められたことが世界遺産へ登録された理由だ。

得も言われぬエメラルドグリーンの海、広大なマングローブ林、巨大な葉を四方に広げる植物たち、次ページからは奄美大島ならではの景色を見ていこう。

世界遺産を訪ねて in 奄美大島

世界遺産登録地域の中でも、認定エコツアーガイドの同行を条件に立ち入ることのできる、金作原（きんさくばる）。森が育む生命のオアシスへと出かけてみよう。



まるで原始時代!? なヒカゲヘゴ

金作原では照葉樹の他にシダ類も繁茂している。大きく葉を広げるヒカゲヘゴの樹高は20mを遥かに超える。「葉は太陽の光を、根は水を貪欲に欲しがる生命力に溢れた植物です。崖崩れの後の光の届く場所に生えることが多いのも特徴です」と喜島さん。

ここからスタート！

金作原は環境省が管理する保全地域として、ガイドが同行しなければ入山できない。毒を持つヒメハブなども潜んでいる為、注意して散策しよう。

首里城の建材にも用いられた樹

こちらは「板根」が特徴的なオキナワウラジロガシ。高温多雨な奄美の環境下で、特大のどんぐりをつける。硬く丈夫で、首里城や守礼門の建材としても用いられた。

野鳥の声にも耳を澄ませてみよう

ルリカケスやアマミヤマシギをはじめ、様々な固有種が生息する奄美大島。写真は世界でも日本の九州以南でしか見られないというアカヒゲ（上）と、キツツキの仲間であるオーストンオオアカゲラ（下）

他にも、こんな生物が

地元の子ども達の遊び相手でもあるオキナワキノボリトカゲと、クワズイモの茎に居座るアマミハナサキガエル（1994年に新種として登録）。どちらも絶滅危惧種に指定されている。

奄美大島
エコツアーガイド連絡協議会
Amamian tour guide
会長
喜島浩介さん

世界遺産を次の世代へ守り手として尽力

世界自然遺産登録に伴い、奄美大島では中部から南部にかけてが認定地域（核心地帯）に。そしてその周辺には認定地域を人為的な影響から保護するための緩衝地帯が設けられました。認定地域は地元では「古い森」と呼ばれてきた、島内でも特に森深い場所。足を踏み入れる際も国の許可が必要です。何千年も生きる古木が林立する屋久島とは違い、古い森といっても樹齢は三〇〇年ほど。表土が浅く、大雨による倒木も多い奄美では、千年を超える木は育たないんです。倒木により地表まで日光が届くようになると、そこに小さな草木が生え、小動物が訪れるようになる。そして他を押しのけて枝葉を広げた木が新たに森の一部となる。こうした生命の循環が絶えることなく繰り返されています。金作原では、太古のジャングルを思わせるヒカゲヘゴ、時にピンポン玉くらい大きなどんぐりを落とすウラジロガシなど、奄美ならではの風景と出合えますよ。

世界遺産に登録され、自然保護の仕組みが整っていくことはとても喜ばしいこと。一方で、私達ガイドも資格の更新試験でエコツーリズムの知識が問われるなど、自然の守り手としての責任を果たす必要があります。地元の小中高生たちも、世界遺産登録の理由まで理解している人は少ない。まずは学校の先生に知ってもらうこと。そうして将来の島の守り手を育んでいくことが大切だと思います。

金作原から足を延ばして

生命の宝庫である奄美大島は海、森の見所もたくさん。
こちらにも足を延ばしてみよう。

奄美大島の固有種で、最も原始的なウサギといわれるアマミノクロウサギ

A 湯湾岳

標高 694m を誇る島内最高峰の「湯湾岳」は、シニレク・アマミコの二神が降り立った霊山と伝わる。山中はアマミノクロウサギ、ルリカケス、アカヒゲ、トゲネズミといった希少生物や固有種の宝庫。登山道を行く場合は、ハブなどに遭遇する可能性もある為、ガイドの案内で登ることをお勧めしたい。

頂上には島の開祖と謳われる二神を祀った奄美大師御堂が建つ

B 黒潮の森マングローブパーク

奄美大島のほぼ中央に位置し、国内有数のマングローブ林が広がる住用町。自然に気軽に触れ合える「黒潮の森マングローブパーク」は、カヌーで行くマングローブ体験が大好評。カヌーの操作を簡単な講習でマスターしたら、川を進み、マングローブのトンネルへ。大人でも思わず歓声を上げる光景が待っている。

大島郡奄美市住用町石原 478　TEL 0997-56-3355
営 9:30〜18:00　休 1月1日

上／カヌーの操作は初心者でもすぐに覚えられる　下／マングローブの生命力に満ち溢れたトンネルを進んでいこう

ルート

B 黒潮の森マングローブパーク
《車《 約75分
A 湯湾岳
《車《 約90分
金作原
《車《 約90分
奄美空港

住用河内川の支流の巨大ガジュマル

奄美の恵み

何百年もの歴史を受け継ぐ郷土料理や伝統技術。
奄美を訪れたら、歴史を伝える逸品に出合ってみては。

画像提供：奄美市

鶏飯（けいはん）

江戸時代に生まれた郷土料理

江戸時代に、鹿児島本土からやってくる薩摩藩の役人をもてなすための接待料理としてつくられたのが始まり。当時は鶏の炊き込みご飯のようだったが、昭和に入り、スープをかけて食べる形が一般的になる。現在は、茹でてほぐした鶏肉、干し椎茸、錦糸卵、パパイヤの漬け物、タンカンなどの柑橘類の皮を、白米にのせ、鶏のスープをかけて食べる。奄美大島の鶏飯では、鶏飯作りを体験できる店もある。

具材やスープの取り方などに各店のこだわりがある。お土産用にパウチされた製品やフリーズドライの製品も販売されている

黒糖

製糖始まりの地で味わう深いコクと濃厚な甘み

一六〇〇年代初頭、奄美大島出身の直川智（すなおかわち）が琉球に渡航中に台風に遭い、中国福建に漂着する。その際、サトウキビ栽培と製糖技術を修得し、苗を三本持ち帰り栽培。一六一〇年に黒糖を製造したのが日本における製糖の始まりと言われている。奄美の黒糖は、カラメルのような苦みと深いコクのある甘みが特長。サトウキビの搾り汁をそのまま煮詰めて、冷やし固めて作られるため、ビタミンやミネラルを豊富に含んでおり、健康食としても注目されている。

黒糖そのものの他、ピーナッツに黒糖を絡めたもの、黒糖かりんとうなどの菓子が人気。米麹と黒糖から造られる「奄美黒糖焼酎」も注目されている

本場奄美大島紬

日本の最高峰の絹織物受け継がれる伝統技術

絹織物ならではの光沢と、緻密な染めと織の技術で生まれる美しい柄、さらっとした手触りが魅力の本場奄美大島紬。軽くて暖かく、着れば着るほど体に馴染み、着崩れしにくく、しわになりにくいという特徴がある。現在、本場奄美大島紬協同組合が運営する「本場奄美大島紬技術専門学院」では、紬職人の後継者の養成を行っている。また、若い職人たちが立ちあげた「本場奄美大島紬ＮＥＸＴプロジェクト」などの取り組みもすすめられ、後世への伝統技術の継承が行われている。

本場奄美大島紬の製造工程を見学できたり、泥染めやはた織り、着付けなどが体験できたりする観光施設もあるので、訪れる前に確認したい

鹿児島で広がる サステナブルツーリズム

SDGsへの関心が高まる中、自然環境、文化、伝統などを守りながら、地域資源を持続的に保つことができるような観光の取り組み「サステナブルツーリズム」が世界各地で取り組まれている。世界遺産を擁する鹿児島での動きを紹介しよう。

路面電車をLRTに

鹿児島市

緑化された軌道を走る低床車両

人と環境にやさしい路面電車を活用

二〇二三年、栃木県で国内で七五年ぶりに新しい路面電車が開通したことが話題となった。こちらは従来の路面電車とは異なり、「LRT＝Light Rail Transit（ライト・レール・トランジット）」と呼ばれる次世代の交通システムで、各種交通との連携や低床式車両の活用、軌道・停留場の改良など優れた特長を有する。LRTは人と環境にやさしい乗り物として注目を集め、今、全国で新規開業や路面電車のLRT化が検討されている。

鹿児島市にも大正元年（一九一二）から運行している路面電車があり、現在、こちらを活用したLRT整備計画が進められている。鹿児島市交通局の中江智次さんは次のように話す。「鹿児島市の路面電車は朝のラッシュ時は最短四分間隔で走っており、市民の皆さんの移動手段として活躍しています。市内の中心部はもとより、桜島やフェリー乗り場など観光地へのアクセスにも便利。CO_2の排出量が少なく、渋滞に影響されないのも利点です。この財産を更に快適に利用するために、LRT化を進めています」

現在はおおよそ四台に一台の割合で低床車両を運行し、バリアフリー化を進めている。一方、既存の車両も修理しながら大切に走らせており、これもまたエコにつながる取り組みと言えよう。この他、軌道敷緑化の整備や、低振動・低騒音のための軌道改良工事なども進めている。

上／昔ながらの車両も活躍。写真は600形1962年製造　下／2021年、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業に連動して鹿児島駅前停留場を整備し、アクセスや待合環境を改善

イマジン屋久島

屋久島町

環境教育と島の未来を担う人材育成に取り組む「HUB & LABO Yakushima」の活動。高校生の修学旅行で屋久島の森の恵みに触れるプログラムを実施

「次の三〇年」のためにCO²フリーの島づくり

屋久島で「イマジン屋久島」と称する取り組みが二〇二〇年から始動している。こちらは世界遺産登録三〇周年を機に、その次の三〇年も持続可能で豊かに暮らせる島の在り方（ビジョン）を共に探究していくことを目的に、様々な団体がそれぞれで活動しながら連携するコミュニティ型組織だ。事務局の福元豪士さんに話を聞いた。「活動は多岐にわたるため全てはご紹介できませんが、例えば私が主に取り組んでいる環境教育と人材育成についてお話ししましょう。屋久島は電力を水力発電でほぼ一〇〇%自給しており、島民が排出するCO_2よりも森林のCO_2吸収量の方が上回っています。すでにCO_2フリーを達成していると言えるのですが、この状態を維持するためには知識と意識を持ち続けることが大切。島内の子どもたちや修学旅行で来島する高校生に対して、実際に森林や海岸を訪れながら自然環境の保全について説明する環境教育を行っています。また、屋久島は電気自動車（EV車）の普及率が十%と全国的にも高い方で、EV充電スタンドが島内各所に配置されています。イマジン屋久島のメンバーのEV車の保有者で「屋久島EVユーザーネットワーク」を立ち上げ、ユーザー目線で情報交換や行政への施策提案を行っています」

奄美で長期滞在

瀬戸内町

瀬戸内町嘉鉄の海

コンシェルジュが滞在型観光をお手伝い

東京二三区よりも広く、本土四島を除くと沖縄本島、佐渡島に次ぐ面積を誇る奄美大島。最南部に位置する瀬戸内町の「一般社団法人奄美せとうち観光協会」では現在、観光の形として「滞在型観光」「ワーケーション」「長期滞在」を推奨している。そのきっかけとなる出来事について、事務局の杉岡秋美さんはこう振り返った。「二〇一八年、大型クルーズの寄港計画が行政主導で進められました。人口が一万人以下しかいない町なのに、毎週三千人ものクルーズ乗船客が来ると観光公害を引き起こす、と住民の間で反対運動がおこったのです。そして話し合いを重ねた結果、従来のマスツーリズム（観光の大衆化、または大量の観光客が発生すること）ではなく、奄美の自然を堪能する持続可能なツアーを提案していくことになりました」

このようにして始まった取り組みだが、ほどなくコロナ禍に直面。二〇二一年に旅行会社やコンサルタント向けに瀬戸内町の自然を満喫するトライアルツアーを実施し、一般旅行者の誘客へとつなげる準備を行った。「本島側のほとんどの宿にはWiFiを完備しています。宿泊先や食事処の紹介、アクティビティやガイドの手配といったコンシェルジュサービスも整えました。ここでしか見ることのできない動植物、美しいサンゴの海、島の食材を使った料理、夜の居酒屋で島唄の調べ…。コンシェルジュが奄美滞在のお手伝いをさせていただきますので、お気軽にご相談ください」と杉岡さん。